

## 県立学校のネットワーク環境調査に関する実施方針

令和5年12月20日  
教育DX加速化委員会

本県の県立学校のネットワーク環境の大幅な改善に向け、ネットワークの物理構成や論理構成をはじめ、ネットワークの利用実態など、抜本的かつ総合的な調査を以下の通り実施し、遅延等の発生原因を究明する。

1. 令和5年10月に教育委員会において実施したネットワークアセスメントに基づき、特にネットワーク状況の悪い学校をモデル校（1校程度）に選定し、当該モデル校において、専門事業者の協力を得て、令和6年1月から4月にかけて先行調査を行う。

(1) ネットワーク環境と使用実態に関する基礎調査〔令和6年1～2月〕

ネットワーク技術者が対象校に赴き、書面やヒアリング等から以下の内容を調査し、現行ネットワークの問題点を洗い出す：

- ネットワークの論理構成図や物理構成図（配線図、系統図、ポートアサイン表）等から問題点を抽出
- 現場教員等から利用実態等をヒアリングして問題点を抽出
- トラフィックを現行機器のログから調査
- 無線アクセスポイントを評価機に置き換えて改善状況を確認

(2) 通信品質に関する実態調査〔令和6年1月、4月〕

基礎調査に平行して通信品質に関する調査を実施し、ネットワーク上のパケットロスの発生個所を特定するとともに、無線通信の最適化で品質の改善が見込めるか確認する：

- トラフィック負荷調査〔令和6年1月〕  
対象校において、授業終了後、50台程度のPC端末で当該ネットワークに負荷をかけ、パケットロスの発生状況や通信品質等を調査する。
- ネットワーク計測調査〔令和6年1月・4月〕  
対象校において、1ヶ月程度、授業において実際にタブレット端末を使用してもらい、そのトラフィックの容量や傾向を計測・調査する。  
※ なお、学校行事の関係で、1月は、タブレット端末の使用頻度が低い傾向にあることから、同様の調査を4月にも再度実施する。

(3) 上記(1)の結果を踏まえ、構成や機器資料等から既存のネットワーク環境についてより詳細な調査を行い、上記(1)(2)の調査で洗い出された被疑個所などから、根本原因を特定する〔令和6年1～3月〕

2. 上記1の先行調査結果を踏まえ、先行調査の調査方法を前提として、令和6年度初めを目途に調査方法を取りまとめ、令和6年度前半に県立学校におけるネットワーク環境調査を実施する。

3. なお、上記1および2の調査結果については、まとまり次第、随時、教育DX加速化委員会に報告するものとする。